

【風景街道サミットinあさま】 が開催されました

●とき 2012.10.25(木) ●ところ 東海大学孺恋高原研修センター(群馬県孺恋村)

概要

日本風景街道の全国的な会議が平成19年5月の日本風景街道のキックオフ会議以来、5年ぶりに開催された。「風景街道サミットinあさま」は、2012年10月25日に群馬県孺恋村の東海大学孺恋高原研修センターで全国10地方協議会を始め北海道から沖縄まで関係者約250名が出席した。



参加したパートナーの方々

挨拶

主催の「浅間・白根・志賀さわやか街道協議会」の会長挨拶、群馬県土木部の挨拶に続き、増田国土交通省環境安全課長が「各地域が個性を大切にほしい。今後は、風景街道と道の駅の連携を考えていきたい」との挨拶がありました。



挨拶する増田課長

基調講演

筑波大学の石田教授より「風景・みち・協働」と題して日本風景街道の精神について興味深い講演がありました。「風景」がおとろえることは、地域の力がおとろえている現れであること。「みち」には、道、径、理、美知などあるが日本風景街道に似合う言葉は、全てを含む「みち」であること。「協働」においては、様々な地域の資産や活動との連携が必要でありそれらを「わっしょい:和を背負う」の言葉のようにいろいろな人が味をだして、自然に融合して楽しみながらさらに高いところをめざす必要があること。最後に、これからの日本風景街道の活動は、アメリカのBRPのように「息長く活動してゆく覚悟」をみんながもつことが必要とのことでした。

BRPとは、Blue Ridge Parkwayの略称で全長800kmで建設開始が1934年でバージニア州からノースカロライナ州を結ぶ観光開発道路。年間約2640億円の経済効果を創出。

事例紹介

「のしろ白神の道」-のしろ町あかりの紹介と城下町あいづ道草街道との連携の取り組み

秋田県北地域の国道7号と国道101号を中心とした約100kmのルートで、エリア内には、秋田杉や世界遺産である白神山地のブナ林などの木材資源が豊富なことから「木のまち」、「木の香る道」づくりをめざしているとのことでした。

具体的な取り組みとして、シーニックデッキや木製ベンチなどの「木のおもてなし空間」の創出。夏と冬に開催する「のしろまち灯り」での、灯りにスギ間伐材につくた台に廃食用油で作ったろうそくを使用する「スギ灯り」。ウッドチップや木質平板ブロックを活用した歩道景観の形成。

連携ということでは、福島県の「城下町あいづ道草街道」と平成18年より交流を実施しており、東日本大震災の被災に対して、特産品の販売を行い支援を実施した。今後はお互いに協力し、地域の活性化を目指していくことを目的に、「姉妹街道」の協定を締結する予定とのことでした。



スギ灯りの風景

「風待ち海道」ー島根県隠岐の島の風景街道とジオパークの取組み紹介

島根県隠岐島全体を活動エリアとし、4村町(隠岐の島町、西ノ島町、海士町、知夫村)にまたがる。具体的な活動として、隠岐の魅力を紹介するガイド育成、隠岐の歴史、自然観光資源を紹介するエコツーリズムガイドブック作成事業、重要文化財や古民家を活用し、食事や宿泊所を来訪者に提供するおもてなし事業。

それらの活動を通じて具体的な目標として「世界ジオパーク」の認定を目指した取り組みの紹介がありました。活動資金として、イオングループとの連携による「隠岐ジオパークWAON」の誕生があります。これはWAONの利用料の一部を寄付してもらえもので、協議会の自立に大きく貢献するものです。



「隠岐島の海岸風景」

「浅間・白根・志賀さわやか街道」ー地域全体での植栽活動や写真展の取組み

2県(群馬県、長野県)、6町村(山ノ内町、中之条町、草津町、嬭恋村、長野原町、軽井沢町)にまたがる活動エリアを持ち、関東で第1号の風景街道。

具体的な活動としては、春の合同植栽活動で沿線にサルビア等の植栽を行うもの、イベント情報を網羅したパンフレットの作成、写真コンテストの開催と入賞作品の移動展示会の開催、ルートサインの設置を実施している。



「嬭恋パノラマライン」

パネルディスカッション

横島氏(日本風景街道戦略会議委員)の司会で石田教授、松本氏、矢口氏のパネラーのコメント後、テーマ毎に議論がされた。横島氏からは「難産の子は良く育つ」というように風景街道は、きびしい社会情勢の中、資金不足をパートナーシップが大きな力となり登録数を91から128までに伸ばしており評価できるとのコメントが、また矢口氏から「発信」するにはメディアの特性をよくつかむことが重要で、雑誌はピンポイントの発信が可能。旅行者には県境はなく、テーマで旅行する人には距離も関係ない。地域の魅力を発信する際には、「時期、地域、食、地元の人」に留意してとのアドバイスがありました。石田教授からは、魅力の発掘には、「よそもの目」が必要で活動は長期にわたる覚悟が必要とのコメントがありました。

「発掘」「連携」「発信」のテーマで、四国からは発信のテーマについて、南いよ風景街道の「兵藤朝美」さんが、マスコミへの日頃のPRや地元の人々の口コミの大切さをこれまでの体験を交えて報告されました。



「パネラーの皆様」



「発表する兵頭さん」

* 会場前には、各地のポスター等PRコーナーがありましたが、四国のコーナーは終了時には、品切れとなり好評でした。



現地視察

* 翌日は、3ルートに分かれて現地視察を実施しました。ルートサインが設置されている箇所もあり、木製でルート名と全体のマップの構成はわかりやすく印象に残りました。また、嬭恋村の名産はキャベツで嬭恋パノラマラインから見えるキャベツ畑は壮観な景色でした。



「愛妻の丘のルートサイン」



「嬭恋村のキャベツ畑」

参加者よりの一言

2日間にわたる風景街道初の全国サミットでは、どの時間をとっても、有意義で楽しい研修と交流となりました。初日の嬭恋研修センター本会場では、基調講演とパネルディスカッションの後、フロア発表で活動報告する機会を頂きました。古い酒蔵を竹灯籠と松明でライトアップした自慢のポスターの集客効果や、ケーブルテレビでの地元民へのアピールなど「情報発信」についての取り組みをご披露。会場を変えた草津町のホテルでの交流会では、観光アピール力に長けた草津町町長の挨拶に乗せられて、四国ブースのポスターセッションに整備局の渡辺さんと励みました。絶え間ない訪れに喜んだのですが、おかげでフロアいっぱいのご馳走は食べ損ないました。若手の発足したばかりのグループからは、CATVとの関わり方について質問を受けたり、40年代から地域興しを発信し続けてきた木曾の大先輩には励ましの声かけをして頂いたり、熱心に実践し模索されている方が全国にいるのを肌で感じて、心強い限りでした。本当に良い機会を設けて下さいました。翌日の現地視察では、山之内町役場の観光課長の名調子にバスガイドさんが脱帽して引っ込み、地元ならではの郷土愛に満ちた詳細で洒落な自慢話の話しに魅せられっぱなし。火山台地と点在する池、白樺の林にリンゴ畑の連なりと、愛媛では出会えぬ風景に感動し、あっという間に時が経っていました。ホテルで食べた嬭恋のちぎりキャベツの美味しさや、初めて収穫したリンゴの实のみずみずしさをしっかり記憶して、こちらの仲間にもと早速現地発注しました。こんなにゆったりと人や物との出会いを楽しめた旅は、久しぶりでした。風景街道を愛する皆様の行き届いたご配慮で、二泊三日の研修を心身ともに満喫させていただきました。本当にありがとうございました。(参加者:南いよ風景街道 愛南町ボランティア連絡会事務局長 兵頭朝美さん)

お問い合わせ

● 四国風景街道協議会

国土交通省 四国地方整備局 道路部 地域道路課内

● TEL087-811-8323

● FAX087-811-8421

● mail shikoku-fukeikaido@skr.mlit.go.jp